

この度は、PIVOT SML-X をお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。お取り付け、ご使用前には必ず本説明書をよくお読み下さい。尚、取り付けミス、誤った使用によるクルマの故障、事故等については当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承下さい。

SML-Xの特長

- ①最高350km/hまで1km/h単位にスピードを表示します。
- ②スピードリミッターをマイコンがクルマごとの特性に応じ、理想的に解除します。
- ③0~100、0~200、0~300、0~400mの各加速タイムをオート計測できます。(0.01秒単位)

警告 スピードリミッター解除機能は、一般公道での使用は違法行為と見なされ、処罰される場合があります。公道使用車は、絶対配線しないで下さい。(公道で処罰された場合、当方は責任を負いかねます。)

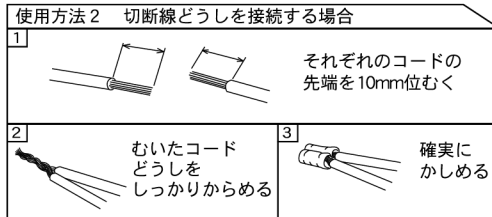
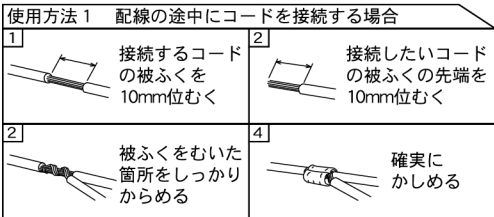
注意 本機は対応車種にのみ、お取り付け下さい。対応車種以外のクルマに取り付けた場合、各表示・機能が正常に動作しない、あるいはクルマに何らかの故障が出る場合があります。

セット内容



カットギボシの使用方法

※半田付けができる場合は行って下さい。

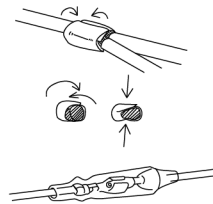


オス、メスギボシの使い方



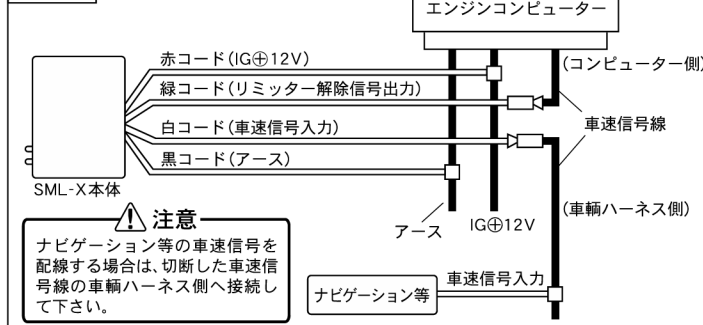
各ギボシについてのご注意

1. カットギボシのかしめには圧着工具をご使用下さい。工具がない場合はラジオペンチ等で折り返したむようにしっかりとかしめて下さい。(右図)
2. 不確実なかしめは断線の原因となりますので、かした状態を今一度お確かめの上、**必ず確実にビニールテープ等で絶縁して下さい。**
3. オス・メスギボシは、接続後オスカバーがメスカバーの内側へ入り込むようにしっかりとネジ込んで下さい。



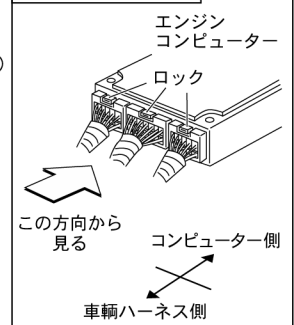
取付方法

基本配線



注意 ナビゲーション等の車速信号を配線する場合は、切断した車速信号線の車種ハーネス側へ接続して下さい。

コンピューターの見方



- 注意**
- ①配線場所の確認時以外は、バッテリーの⊖端子を外して作業して下さい。
 - ②各コードの配線場所をよくお確かめの上、確実に接続して下さい。

1. 車種別エンジンコンピューター図のIG・SP・アースの各配線に各コードを接続します。

注意 車種により前期と後期、M/T (マニュアル車) とA/T (オートマチック車) 等でコンピューター図が異なる場合がありますので、年式等をよくご確認の上お取り付け下さい。

赤コード=エンジンコンピューターのIG⊕12Vの配線 (図中IG) にカットギボシを使用して接続します。
 緑コード=エンジンコンピューターの車速信号線 (図中SP) をカットし、そのコードのコンピューター側へギボシオスを取り付け、緑コードのギボシと接続します。

白コード=カットした車速信号線の車種ハーネス側へギボシメスを取り付け、白コードのギボシと接続します。

黒コード=エンジンコンピューターのアースの配線 (図中=アース) にカットギボシを使用して接続します。

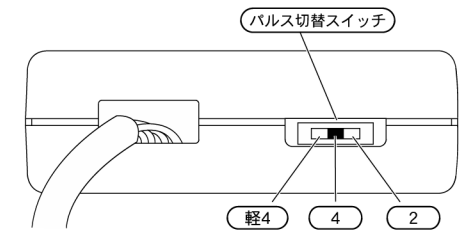
2. 各配線場所の接続及び絶縁の状態を今一度お確かめの上、バッテリーの⊖端子を戻して下さい。

警告 不確実な取り付け (特に絶縁) は、製品やクルマの不具合や故障、あるいは火災等の原因となります。

パルスセット

1. 本体ウラのパルス切替スイッチを操作して、取り付けしたクルマの車速パルスを合わせます。
2. 実走行にてSML-Xの表示と純正メーターの表示を比べ、合っていればセット完了です。

(純正メーターと多少表示がズれる場合がありますが、これは純正メーターの特性上の狂いで、本製品の方が高精度となっております。)

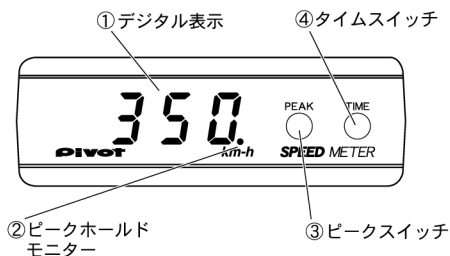


スイッチの位置			
パルス数	2パルス	4パルス	4パルス (軽専用)
適応自動車メーカー	NISSAN	TOYOTA, HONDA SUBARU, MAZDA MITSUBISHI (軽を除く)	SUZUKI DAIHATSU (軽自動車専用)

警告 表示の確認を行う時は、交通法規に従って、安全に十分ご注意下さい。特に、不用意なわき見運転は事故等の原因となります。

注意 SML-Xの表示が純正メーターの2倍、あるいは半分の表示となる場合は、スイッチの位置が間違っていますので、スイッチを操作して合わせて下さい。尚、軽自動車のスイッチの位置は1ヶ所です。これを間違えすとリミッター解除ができなくなります。

各部の名称及び機能



- ① スピード表示
(0~350km/h 1km/h単位⇒リアル/ピーク)
タイム表示
(0~99.99秒 0.01秒単位⇒計測タイム)
- ② ピークスピード表示中点灯します。
- ③ リアルスピード・ピークスピード表示切替用
- ④ 0~400m等の加速タイム計測モード切替用

表示と使用方法

1 スピードメーター表示

通常は走行と共にそのスピードをリアル表示します。但し、減速時は、見やすく段階的にそのスピードを表示します。

2 リアルスピード・ピークスピード表示の切替方法

ピークスイッチを押すとピークホールドモニターが点灯し、それまでの最高（ピーク）スピードを表示します。ピークスピード表示は、それ以上のスピードになった時に更新されます。ピーク表示中にピークスイッチを押すとリアルスピード表示に戻ります。（ピークホールドモニターは消灯）

3 ピークスピードデータをリセットする場合

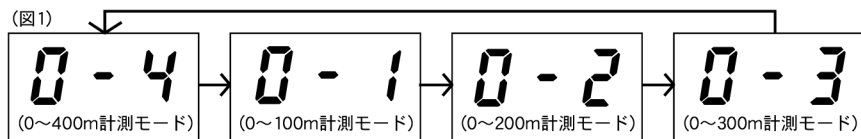
ピーク表示中にピークスイッチとタイムスイッチを同時に押すとリセットされます。（IG OFFにした場合もリセットされます。）

4 タイムアタック (0~100、0~200、0~300、0~400mの各オート計測をします。)

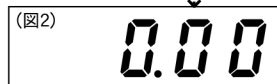
警告 タイムアタックは、一般公道では行わないで下さい。公道での使用はスピード超過、事故等の原因となり危険です。

注意 ①タイム等の確認時は、事故防止のためクルマを安全な場所に停止させてから行って下さい。
②計測中のピークスピードを確認したい場合は、それまでのピークスピードを計測前にリセットして下さい。

〈手順〉①クルマを一旦停車させ、タイムスイッチを押すとデジタル表示部に（図1）のように表示がされます。タイムスイッチを続けて押すと表示が切り替わりますので、計測したい距離に表示を合わせます。



②そのまま表示をさせておくと、約1秒後にタイム表示に切り替わります。
(計測スタンバイ=図2)



③クルマが動き出すと自動的に計測を開始し、セットした距離に達したところでアラーム音と共に計測を終了、所要タイムを表示します。（図3）

④タイム確認後、ピークスピードを確認する時は、タイム表示のままピークスイッチを押すと表示されます。



※再度タイムアタックをする場合は、手順①から操作します。

〈注〉各データのリセットについて)

- ①計測中及び計測後にタイムスイッチを押すと計測タイムはリセットされます。
- ②ピークスピードを表示させると、同時に計測タイムはリセットされます。
- ③IG OFFにすると計測タイム・ピークスピードともリセットされます。

故障と思われる前に

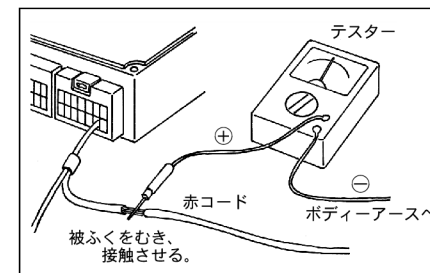
※修理依頼なされる前に、次の項目をご確認下さい。

症 状	確 認 事 項
デジタル表示が出ない。	赤コード (IG⊕12V)は確実に接続されていますか？ 黒コード (アース)は確実に接続されていますか？
スピード表示されない。	コンピューターの車速信号線 (図中SP) の位置は間違っていないですか？ 緑・白コードはそれぞれ確実に接続されていますか？
スピード表示が純正メーターと比べ、2倍 (又は半分)の表示がされる。	本体ウラのパルス切替スイッチの位置は間違っていないですか？
純正メーターとSML-Xの表示が多少ずれる。	純正メーターには多少誤差がありますので故障ではありません。 又、本機は表示を見やすくする為、減速表示を多少遅らせてあります

(参考) 赤コード接続状態の確認方法

赤コード (IG⊕12V)の接続状態は、右図のようにテスターを使ってキースイッチON状態の電圧を確認し、⊕12V出ていれば赤コードの接続状態は問題なし、出なければ配線場所が違うか、接続状態が悪い可能性があります。

注意: 確認後、被ふくをむいた箇所は、必ず絶縁して下さい。



PIVOT CORPORATION

株式会社ピボット 〒390-0313 長野県松本市岡田下岡田87-3 TEL0263-46-5901(代)